

インドネシア  
「グリーンウォール」の普及と拡大  
現地からのお便り（2019年7月～2020年6月）

2020年8月  
コンサベーション・インターナショナル



グリーン・ウォール・プログラムにより再生された森

### 森林再生地のモニタリング

若木は、天候や害虫、人間の経済活動など、様々な影響を受けやすいため、植林後の定期的なモニタリングはとても重要な活動です。私たちは年に1度データ収集を兼ねたモニタリングを行うほか、毎月地域コミュニティや国立公園のレンジャーと協力して、若木の成長をモニタリングしています。

今年は1月にデータ収集のモニタリングを行い、コミュニティメンバー50名と、国立公園スタッフ15名が参加しました。植林した木は97%が順調に育っており、成長が早い木は果実を実らせているものもありました。さらに、熟した果実が地面に落下し、その種から新しい芽が生えている様子も発見しました。

また、今回は各樹木の生長をサンプリングにより測定しました。その結果は以下のとおりです。

木の種類	平均値	
	樹木の直径 (cm)	樹高 (m)
ラサマラ ( <i>Altingia excelsa</i> )	15.8	6.6
ヒメツバキ ( <i>Schima walicii</i> )	11.7	7.6
ヒメタイサンボク ( <i>Manglietia glauca</i> )	12.9	7.1
クスノキ科の一種 ( <i>Neolitsea javanica</i> )	11.8	9.05
スリアン ( <i>Toona sureni</i> )	20.4	11.6
ジタノキ ( <i>Alstonia scholaris</i> )	22.4	8.9
ホルトノキ科の一種 ( <i>Elaeocarpus pierrei</i> )	14.2	7.6
フトモモ科の一種 ( <i>Eugenia clavimirtus</i> )	13.2	8.3

今回のモニタリングでは、対象地域で農業を行っている人が2008年の665人から、113人まで減少していることが確認できました。プロジェクトが地域コミュニティに代替生計手段（養殖や家畜など）を支援し、教育啓発活動を行ってきたことが、人々の森林資源への依存を軽減させていると考えられます。



森林再生地でのモニタリング活動



母樹の近くに育つ若木

## グリーン・ウォール内の動物観測

森林再生によってグリーン・ウォールを築くことは、野生動物たちの生息地を確保することにも繋がります。私たちは2019年7月から2020年6月にかけて、新しく森林再生された地域にどんな野生生物が生息しているか、カメラトラップを用いて観測しました。その結果ジャワヒョウやマレーセンザンコウなど、絶滅危惧種を含む10種類の野生生物の姿がカメラで捉えられました。



ジャワヒョウ  
*Panthera pardus melas*



ベンガルヤマネコ  
*Prionailurus bengalensis*



ジャコウネコ科の一種  
*Viverricula indica*



ジャワマンガース  
*Herpestes javanicus*



パームシベット  
*Paradoxurus hermaphroditus*



マレーセンザンコウ  
*Manis javanica*



イノシシ  
*Sus scrofa*



マメジカ科の一種  
*Tragulus javanicus*



ジャワヤマアラシ  
*Hystrix javanicus*





カニクイザル  
*Macaca fascicularis*

## 看板

サイトには、プロジェクトの看板が 5 つ設置されており、毎月看板の状況もチェックしています。前回破損のあった看板は 12 月に修復されましたが（看板①）、今回新たに 1 つ修復が必要な看板が見つかりました（看板⑤）。



看板①



看板②



看板③



看板④



看板⑤

※文中の写真は ©CI Indonesia/ Photo by Anton Ario（カメラトラップの動物を除く）

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。